

研 会 報

No.139

宮崎県教育研究連合会

事務局 宮崎市西池町9-8(校長会館内)

TEL・FAX(0985)27-4508

<http://www.miyakyoukenren.sakura.ne.jp/>



自 他 共 栄

宮崎県教育研究連合会 会長 榎木 満

「平成」が終わり、新たな時代「令和」が始まりました。すでにご承知の通り、「令和」は、万葉集の序文に典拠があり、「時に、初春の令月にして、気淑く風かぜ和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す」から来ているとされています。また、安倍晋三首相は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味を込めたと述べられています。

まさに、日本の伝統文化を表した元号だと思えます。その令和の来年、令和二年夏に、日本で二度目となるオリンピック・パラリンピックが開催されます。きつと、新たな時代の幕開けにふさわしい大イベントになることでしょう。

私は、その前の昭和三十九年（一九六四年）の東京オリンピックの際、四歳で、当時の記憶はあまり残っていませんが、数年後にみた市川崑監督の記録映画の記憶が鮮明に残っています。

さて、オリンピックと言うと、私は、柔道の創始者であり、東洋初のIOC委員であった嘉納治五郎のことを思い出します。私が、田野中学校で武道指導研究指定校の研究主任を務めていた際、嘉納治五郎の著書「自他共栄」をいろいろ読んで、勉強しました。そのときに出会った嘉納治五郎の言葉が「自他共栄」でした。その自他共栄について、嘉納治五郎が述べたのが次の文章です。

社会を成し、団体生活を営んでいる以上、その団体・社会を組織して融和協調して、共に生き栄えることがいかに大切なるはあるまい。各成員がことごとく相互に融和協調しておれば、おのれのはたらきがおのれ自身の益となるのみならず、他をもまた同時に利し、共々幸福を得るは明らかであり、他の活動がその人自身のためばかりでなく、おのれを始めその他の一般の繁栄を増すはもちろんのことである。

かような次第で、その融和協調の大原則は、つまり自他共栄ということに帰する。

嘉納治五郎は、「自他共栄」とともに「精力善用」という言葉ももちいて、「精力善用」と自他共栄は、社会生活の根本原則である」とも述べています。

「勢力善用」とは、「何事をするにも、その目的を達するために精神の力と身体のとを最も有効に働かす」ということですが、その「善」の目的の一つが「自他共栄」と述べています。

先にあげた嘉納治五郎の文章は少々難しいですが、ごく簡潔に言えば、「互いに信頼し、助け合うことができれば、自分も世の中の人も共に栄えることができる。そうした精神を養い、自他共に栄える世の中を作

らう」ということだと思えます。さて、私たちの宮崎県教育研究連合会は、昨年で五十周年を迎え、今年、新たな五十年目の扉にたちました。

教育の正常化を目指して、県内七つの地区団体が大同団結したのが、昭和四十四年二月のことです。そして、その後、五十年以上に亘り、宮崎県の教育水準の向上のため、幾多の困難を乗り越えて、活動を続けてきたのです。

しかし、今、宮教研連も岐路に立たされています。かつての教育正常化の対局構図が薄れるとともに、児童・生徒数の減少に伴う教職員数減少も重なり、ここ数年々会員数は減り続けています。

その一方で、本県は、すでに大量採用時代に入っており、新規の教職員が大きく増加してきています。

だからこそ、そんな今だからこそ、職能団体として、研修一筋にやってきた宮教研連の存在の意味を問い直し、新たな付加価値を創っていく時代と思うのです。

これからの宮教研連の進むべき道を考えるとき、私は、この嘉納治五郎の言う「自他共栄」という理想を、宮教研連としてもしっかりと捉え直していかなければならないと考えています。

会員相互の結束と信頼と協力により、宮教研連と会員一人一人が共に栄える組織を作っていくことで、宮教研連の綱領である「教育関係職員としての人格見識の高揚」と「教育関係職員として研修の充実」を図ることができ、ひいては、宮崎県の教育水準の向上に貢献することにつながっていくと信じています。

今こそ、私たち約千名の会員一人一人がその担い手として、宮教研連への帰属意識をしっかりと持ち、その真の存在力を示す時なのです。

令和元年度 各支会長・理事長紹介



金丸克也会長
(宮崎支会)



水永正宗理事長
(宮崎支会)



塩月貴会長
(南那珂支会)



甲斐裕之理事長
(南那珂支会)



房野保弘会長
(都北支会)



竹下龍祐理事長
(都北支会)



日高亘会長
(西諸支会)



山崎克尚理事長
(西諸支会)



枝松孝会長
(西都・児湯支会)



児玉寿理事長
(西都・児湯支会)



白地浩会長
(日向支会)



安治川洋平理事長
(日向支会)



瀧砂一徹会長
(延岡支会)



東坂将秀理事長
(延岡支会)



興沼良治会長
(西臼杵支会)



山元裕司理事長
(西臼杵支会)

宮崎県教育研究連合会は、教育関係職員としての人格見識の高揚に努め、研修の充実を図り、宮崎県の教育水準の向上に努める教職員の研修団体です。県内に8つの支部を置き、約950名の会員数を有しており、県本部と各支部で様々な研修を実施しています。

第4回親守歌コンクール表彰式

第四回宮崎県親守歌コンクールの表彰式を、宮崎市清武文化会館で、平成三十一年一月十九日(土)に行いました。昨年度は、作文・詩四五点、定型詩二二五点、連歌一七八点の力作が集まりました。表彰式では、各部門の優秀賞三点、佳作数点について、一人一人作品を読み上げながら、表彰を行いました。どれも心のこもった素晴らしい作品でした。入選された皆さん、おめでとうございます。また、ご応募いただきました皆さま、ありがとうございます。



徳教・宮教相互交流事業



石井十次の生涯を語る
橋田和美氏



挨拶する徳教団・上原卓委員長

平成三十一年二月十日・十一日に、徳島県教職員団体連合会(徳教団)の皆様十名が来宮され、宮教研連役員と交流研修・情報交換を行いました。この事業は、一昨年度、宮教研連が徳教団のお招きで徳島を訪問しましたので、そのリターンとして、今度は宮崎を訪問されたものです。開会后、郷土宮崎の偉人で、「福祉の父」と言われる石井十次の偉業について、十次の会橋田和美会長から講話していただきました。その後、宮教研連研究員の雨崎雄先生と徳教団前田晴雄先生の研究発表を行いました。さらに、それぞれの県の特徴ある事業等について、情報交換を行いました。徳島の取組を知ることができ、貴重な交流会になりました。

次代を見据えて！ 創設50周年 記念事業 ～新たな50年に向けて～

平成三十年十一月十日、宮崎市シーガイアコンベンションセンターにおいて、五十周年記念式典を開催しました。来賓として、五十周年育次長、郡司全日教連委員長を始め、各単位団体代表や県内教育関係者等、多数ご臨席をいただき、大盛会となりました。

記念式典では、五十年前の創設当時の熱い思いを今一度確認するとともに、次の五十年に向けて、新たな足取りを踏み出す必要性を確認し、五十周年の節目を契機として、学校教育に携わる誇りと職責を自し、情熱と志をもって教育の充実発展に尽力していくことを誓い合いました。

その後、衆議院議員馳浩氏による記念講演が行われました。馳氏からは、教員の人材育成、いじめ、道徳科、部活動、特別支援教育など、多方面の教育的課題について、ご自分の経験を踏まえつつ、大変有意義なご示唆をいただきました。

この後、宮崎の郷土芸能の一つである「新田(にゅうた)神楽」を見童が奉納し、続いて祝賀会も開催されました。

今回の一連の五十周年事業により、関係機関との連携と会員相互の連帯を深め、宮教連の使命と存在意義を今一度確認し、結束しようとの意気を高め合えることができました。

祝 宮崎県教育研究連合会創設50周年



馳浩元文部科学大臣



教 教師力向上研修

教 第1回 5月11日・土 学級経営 会場:県教育研修センター 講師:末住祐子先生

教 第2回 6月23日・日 特別支援教育 会場:県教育研修センター 講師:半田健氏 (宮崎大学教育学部講師)

教 第3回 8月24日・土 学級経営 会場:延岡市内 講師:末住祐子先生

教 第4回 10月26日・土 外国語活動 会場:都城市内 講師:未定

宮教研連のつどい 8月31日・土 会場:宮崎市佐土原総合文化センター 研究員の研究発表・記念講演:蘭華氏 ※大分県出身。美しく透明感溢れる歌声とオリエンタルな世界観で注目される癒し系シンガーソングライター。「悲しみにつかれたら」「ねがいうた」「東京恋文」他



蘭華氏

教 第5回 12月7日・土 理科マジック 会場:宮崎市内 講師:神田昌彦先生他

研 スクールマネジメント研修

研 第1回 7月27日・土 教育法規等 会場:県教育研修センター 講師:未定(県教委OB等)

研 第2回 11月9日・土 カリキュラムマネジメント 会場:宮崎市内 講師:未定(管理職OB等)

研 第3回 12月1日・日 スクールマネジメント 会場:宮崎市内 講師:未定(会社経営者等)

※この他にも、BrushUp研修や各地区での研究会など、各地区の支会が実施する研修もあります。★期日・内容・会場等は、変更になる場合がございます。最新情報は本会ホームページをご覧ください。



祝 宮崎県教育研究連合会創設50周年



ホームページで最新情報を！

<http://www.miyakyoukenren.sakura.ne.jp>

宮教研連のホームページでは、最新情報を提供しています。本部フェイスブックと連動を図ったり、研修案内や報告を掲載したりしています。ダウンロードページや会長ブログも充実させていきますので、是非、ご覧ください。また、ホームページで取り上げてほしい内容がありましたら、本部までお知らせください。

Facebook <https://www.facebook.com/miyakyokenren/>

魅力ある研修 ～ 次世代リーダー養成研修 ～

本会の存在意義と価値の継承
「魅力ある研修」の実施

副理事長 溝邊 雅幸

宮崎県教育研究連合会は、昨年度で創設五十周年を迎えましたが、創設時から時代も移り変わり、本会の存在意義と価値についてしっかり引き継ぎつつ、新しい時代に対応していかなければなりません。

本県では多くの諸先輩方が退職を迎えており、会員減少の傾向にあります。そこで、今後、新規教職員が増加するため、現会員の資質向上と会員獲得のために本部と支会が力を合わせ、「魅力ある研修」を行っていくことがますます重要になってきています。

このような状況を鑑み、会員の資質向上を目的した本部主催の事業の一つである「次世代リーダー養成研修」を平成二十七年に立ち上げ、昨年度も四期目として実施しました。

一昨年度もご講話いただきました前小林市教育長の佐藤勝美先生を始め、前宮教研連会長の待木順一先生、小学校教諭の山口孝治先生、大学准教授の藤本将人先生、そして、有限会社「吉野蔵」代表取締役の寺原信博氏を講師としてお招きし、左記の日程と内容で行いました。すばらしい講師の先生方に来ていただきましたので、学びの多い研修となり、研修生として参加された先生方に大変好評でした。

第1回研修会で講義する待木前会長



研修生の声
・本当に参考になりました。次年度も何かしら勉強できる場を提供して頂きたいです。
・とても内容が濃く刺激になりました。
・現職の先生、大学の先生、経営者の方となかなかお話を聞けない方々でしたので毎回楽しみでした。
・大学の先生の話は毎年でも聞きたいです。

これまでも、すばらしい講師の先生方にご講話をいただいています。そのため、「もっと多くの会員の先生方も参加できる研修にすればよいのでは」というご感想もいただきました。
そこで、令和元年度は、この研修を、次世代リーダー研修員だけでなく、全会員へ参加者を募り、多くの会員の皆様に参加していただける「スクールマネジメント研修」として、さらにパワーアップします。また、魅力ある研修となるよう内容も一層の充実を図り、新規会員の獲得にも努めていきたいと考えています。
そして、会員の「輪」がさらに広がり、本会の存在意義と価値をしっかりと引き継いでいけることを強く願います。

平成30年度 次世代リーダー養成研修		
期日	講師	内容
6月2日 (土)	前小林市教育長 佐藤勝美 先生	次世代リーダーへの期待
	前宮教研連会長 待木順一 先生	宮教研連への思いと次期リーダーへの期待
6月30日 (土)	高岡小学校 教諭 山口孝治 先生	攻撃的な言動のある児童との関わりについて～アタッチメント障がいについて～ 他
9月1日 (土)	宮崎大学教育学部 社会科教育 准教授 藤本将人 先生	社会科授業づくり 他
10月8日 (土)	有限会社吉野蔵 代表取締役 寺原信博 氏	経営者として、リーダーとして 他

全国規模の研修会にも参加できます（「教育シンポジウム高知」参加者の感想から）

明日の日本の教育を考える「変えていくもの 変えてはいけないもの」と題して、不易流行について、グローバルな見地、スポーツ科学及び行政的な視点、現場の具体的な課題等から三者三様の意見が出され、私たち教諭にも大変身近な問題として考えられる討論をしていただきました。特に、高橋氏の話で感銘を受けたのは、家庭教育の重要性です。具体的にどのように進めていくかについて、理論的な側面や現実の課題を併せて指摘いただきました。現場で家庭教育の問題を目の当たりにしている我々としても、注視しなくてはならない話を聴くことができました。
(日向市立塩見小学校 教諭 濱田公一郎)

平成最後の教育シンポジウムということで、3人のパネリストによるそれぞれの立場からみた教育の話がうかがえた。職業が減っていく中で、その時代に合った教育が大切であり、自分たちが当たり前ようになってきたことを、そのまま子ども達に教えることだけではなく、一度立ち止まって考え、目の前の子どもたちをもう一度見つめ直してから、時代や社会にあったものを教えていかなければならないと思いました。また、レセプションでは他県の先生方と交流でき、普段聞けない話も沢山聞くことができました。今回のシンポジウム参加で、認識が広がり、良い勉強になりました。
(日南市立吾田小学校 教諭 原口沙也)

※学校名等は参加当時のものです。



今回の参加で、高知県で考える今の変革期における教育の方向を探ろうとする熱い思いを感じることができました。国の教育施策のバックボーンを知り、納得する場面が多く出かせたからです。宮崎県では、職員の大量退職・大量の新規採用という現実を前にして、どんな問題があり、どう解決していかなければいけないかなどについての指針を垣間見ることが出来ました。この機会は、宮崎県と他県を比較しグローバルな視点をもつことが出来るものでした。今回はシンポジウム高知に参加し有意義な時間を得ることができました。まことに感謝いたします。
(西都市立妻南小学校 教諭 吉野達三)